

# 雑学 鳥獣植物戯詩

## 第15回【海亀】

全24回

八木幹夫

毎年五月初旬から七月になると、静岡県御前崎や鹿児島県吹上浜には絶滅危惧種のアカウミガメ・アオウミガメがやってくる。眼に涙をため、砂の奥に百個ほどの卵を産む。孵化した子亀は翼のような前脚を搔いて海へ戻る。一億数千万年前からつづく生命の営み。四〇年以上を経て、再び産卵に帰ってくる。産卵時の、亀の眼を見れば、達磨和尚の面壁修行九年などなんのその。

昨今の気候変動は間違はなく人間を滅ぼす自然界の逆襲の兆。チキユウを汚すな、チキユウを守れというスロークーガンだけが浮足立っている。ロシアの永久凍土も急速な勢いで溶解している。二酸化炭素の排出量を国家間で売買している場合ではない。もしこのままニンゲンが行動しなければ確実に人類は滅びの方向にむかう。海亀の生命活動の停止というより人類の停止だ。

大洋をさまよう海亀の子よ。ニンゲンのいなくなった未来の美しい海岸に安心して戻っておいで。

名優、小沢昭一（俳号愛哲）さんが余白句会に遊んだ折、グチヨクが好きだなアと天に推してくれた拙句。

海亀の愚直を愛す次の波 山羊